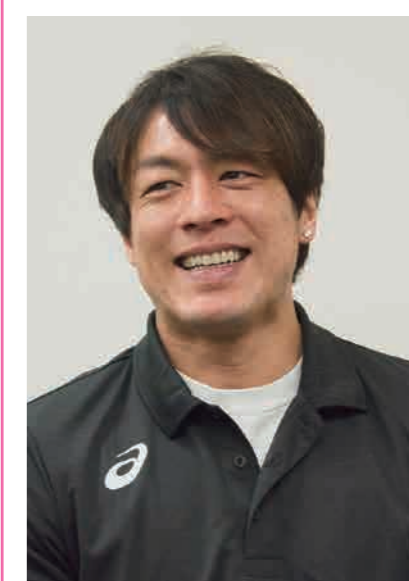


フェアプレイインタビュー

【ハンドボール】
宮崎大輔 選手



プロフィール
生年月日：1981年6月6日
出身地：大分県
好きな食べ物：焼肉
日本リーグ通算
フィールドゴール数
歴代1位!

勝利への情熱と、冷静な思考で オリンピックピックを目指す

2020年も現役で

ハンドボール日本代表で活躍する宮崎大輔選手。日本人で初めて世界最高峰・スペインリーグのチームへ移籍し、帰国後も日本を代表する選手として活躍しています。39歳で迎える東京オリンピックの出場も目指しており「オリンピックで



は、日本独自のチーム力を発揮して、世界と戦い、子どもたちに日本のハンドボールのすごさを感じてもらいたい」と意気込みを語ってくれました。

ハンドボールの魅力

ハンドボールは、1チーム7人で相手ゴールに手でシュートし、得点を競うスポーツです。「走る跳ぶ投げるなど、様々な動きが入っているのが、おもしろいところ。瞬発力、持久力、パワー、ジャンプ力など総合的な能力が必要です」

心は熱く、頭は冷静に

激しい攻撃と守備が見どころでもあるハンドボールでは、相手選手とぶつかり合うことが多くあります。「ついカッとすることもありますが、「心は熱く、頭は冷静に」と、いつも心がけています。試合に勝つための情熱を大切にしながら、常に冷静な思考でいることで正確な判断ができ、フェアプレーにも繋がります」

つらい時こそ1歩前へ

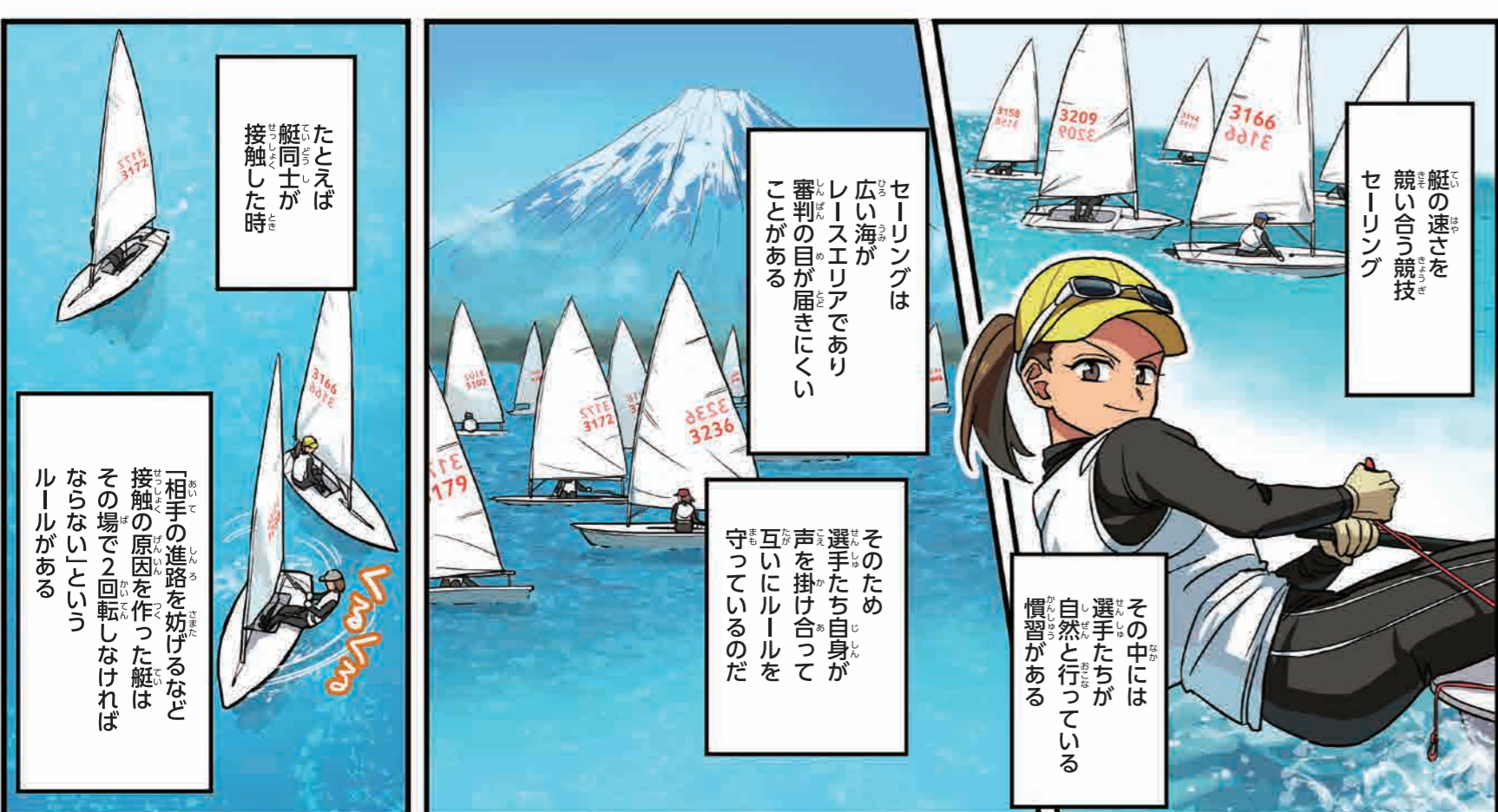
宮崎選手は小さい頃から、何をやるにも「がむしゃら」に、挑戦と努力を惜しみませんでした。例えば、小学校の縄跳び大会では練習を重ね、4年生ながら全校で1位になりました。「努力は人一倍しました。自分ができないことに挑戦し、できるようにすることが嬉しかったです」と振り返り



「フェアプレイ宣言」しました!!
最後にみなさんへのメッセージを送ってくれました。「何かをあきらめなくなった時や、つらい時、「立ち止まることは誰でもできる。そこで、1歩でも前へ進むことで成長し、自信もつく」ということを覚えておいてください」

宮崎選手の筋肉と比べてみよう!

シュートを投げ込む時にジャンプする利き足のふくらはぎは、ほこっと筋肉が盛り上がっている!



たとえは艇同士が接触した時

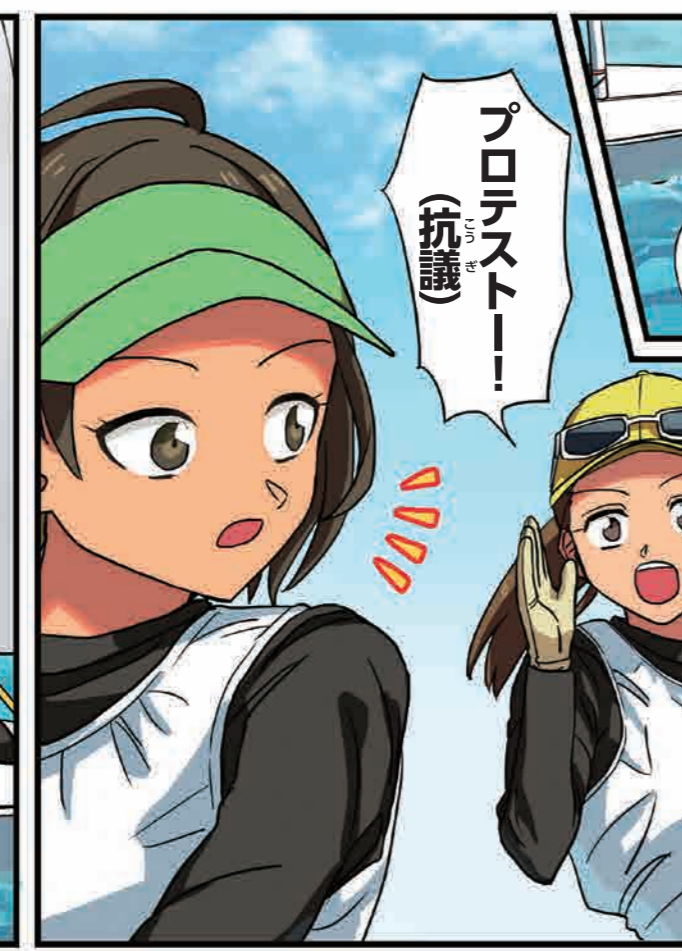
艇の速さを競い合う競技セーリング

セーリングは広い海がシーステアであり審判の目が届きにくいことがある

そのためには選手たちが自身声を掛け合ったり互いにルールを守っているのだ



ごめんなります! 悪かったな...



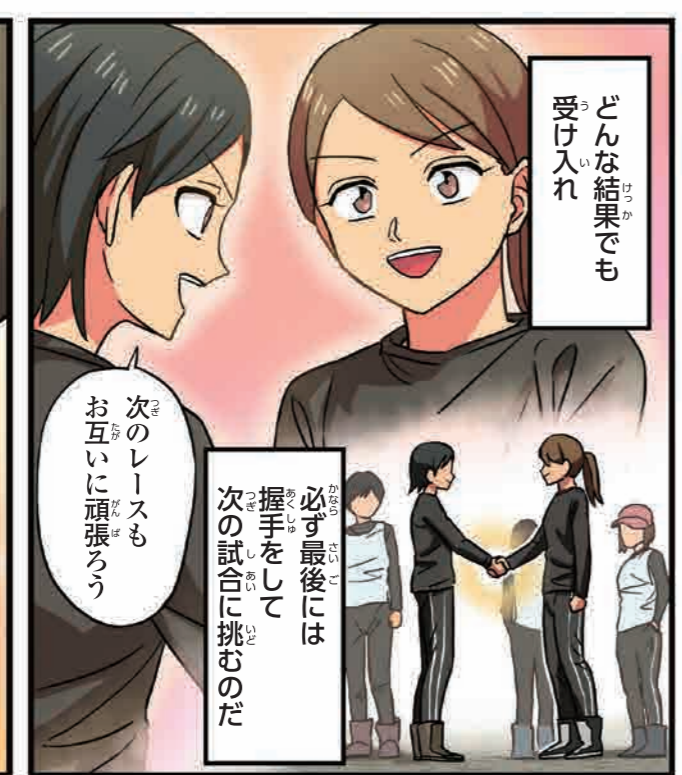
抗議 (プロテスト)!



接触された艇は相手に声をかける



自主的にルールを守りフェアな精神で正々堂々と勝負する



どんな結果でも受け入れ



原因がはつきりせずお互いからプロテストの音があがった時は審判が行われるが

※審判とは、審判の前でお互い事実を話す場

フェアアな精神で戦うセーリングの慣習